

新富町の農業に関する取組

新富町の農業の問題と公社設立の目的

近年、農業従事者の高齢化や担い手の減少、人手不足等にもなう労働力の低下、さらには農産物の自由化や価格の低迷、消費の多様化など、農業を取り巻く情勢は厳しい状況にあります。また、農地利用の多様化やAI・IT・IOTを活用したスマート農業の台頭など地域農業は大きな変革の時期を迎えています。

このような地域農業の現状を踏まえ、行政とJAが一体となり互いに情報の共有を図り、次世代に繋ぐ人材を育成し、攻めの農業を実施することによって農家の生産活動を支援する体制の確立を図るため農業公社『一般社団法人ニューアグリベース』が設立されました。

公社が目指すモノ

本公社は、これまで他の公社がおこなっている事業を踏襲するのではなく『答えのない時代』において自らが考え自らが行動する組織を醸成し、かつ次世代の人材を共に創ることにより地域基幹産業である農業の永続的な発展を目指す。

- ①時代に対応した多種多様な人材の育成
- ②人口減少時代においてスマート農業等を活用した効率的な農業産業の構築
- ③国内需要から海外需要まで生き残るためにDX等を活用した新たな販路や事業支援
- ④地域内だけでなく全国・海外の企業等と連携した視野の広い事業の構築
- ⑤農業だけでなく様々な業種と連携した事業の構築

上記5つの基本指針に沿って公社事業を行う。

ビジョン

vision

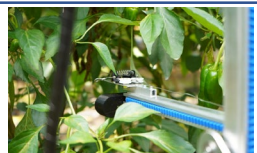
農業を通じて人と人との響きあい
新しい農業を産みだす世界を創造する

現状の課題

スマート農業に関する情報充実



農業勉強会



スマ農実験

人材育成基盤の確立（一本化）

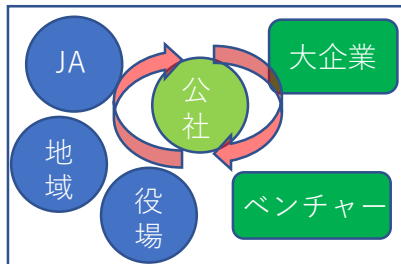


チャレンジ牛舎



トレーニングハウス

横断的につなげる仕組み



内省（新富）だけでは発展が難しい課題に対し、外部との連携（つなげる仕組み）企業連携組織

農地基盤サポート



ハウス団地



規模拡大・集積・法人化

課題に対しフレキシブル（柔軟）に動ける組織

人手不足
マッチング
(アプリ等)

・新規作物
導入実験
・ブラン
ディング

・加工品
・輸出
・販路拡大
・観光農園

持続可能で生き
KGI： 生きした地域農
業を実現する

企業連携

(各種企業
等と30~
50社連携)

【想定される企業】

- スマート農業関連企業
- 大企業 ●新富町連携企業
- 農業関連法人
- 商社 ●スーパー等
- 誘致企業 ●こゆ財団

情報・資金・共同事業

連携・計画作成

農水省ほか
宮崎県

情報
直補助

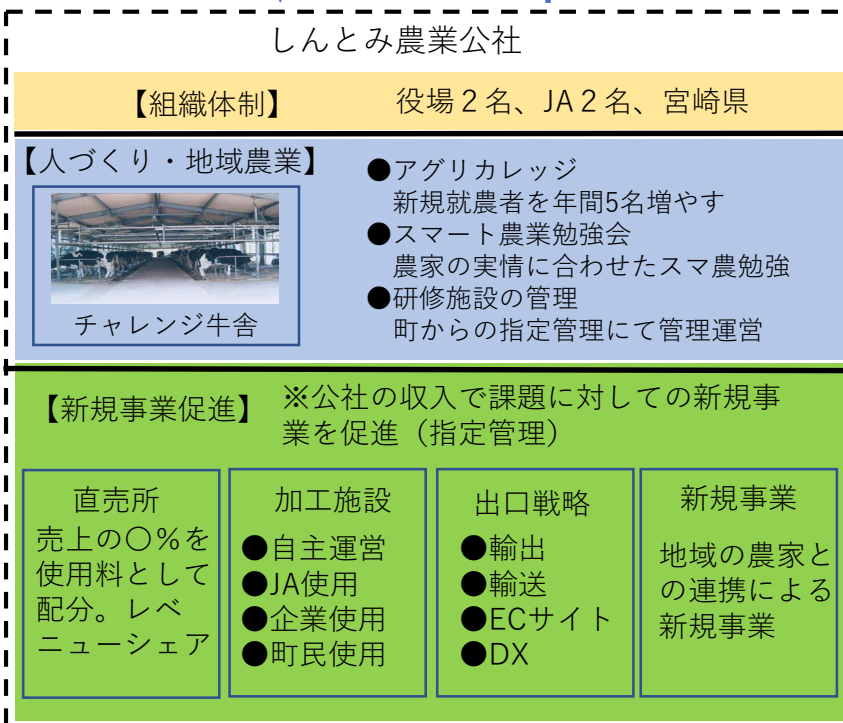
連携
申請

補助事業申請

新富町役場
産業振興課
総合政策課
ほか

建物建設
指定管理

事業申請



支援
事業作成

三位一体

支援
事業作成

新富町役場
産業振興課

情報
共有
役割分担

JA児湯

地域農業

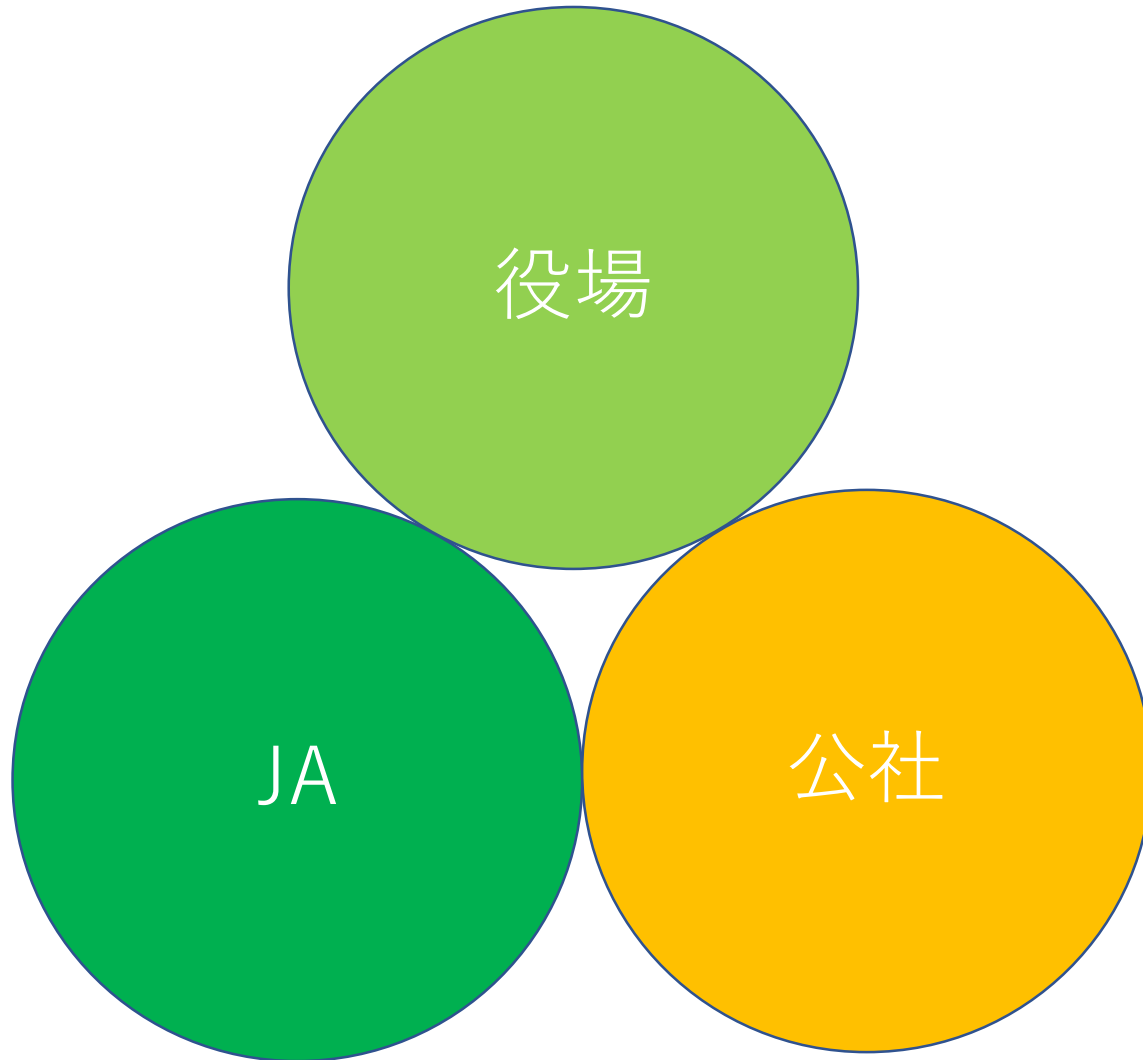
地域農家が自ら行動
を起こすことをサ
ポート・支援

想定される事業

- スマート団地 ●輸出 ●実験施設
- グループ化・規模拡大 ●ブランディング
- 新産地・新規作物 ●新技術（加工・スマ農）

農業を軸とした地域活力を醸成し、地域農業産業を発展させる

地域を活性化し、農業産業を強くするには役場・JA・公社の密な連携が不可欠



持続可能な地域の発展のために、それぞれの機関がその役割を果たすことに加え、3者が状況を密に共有し相互に協力する必要あり。

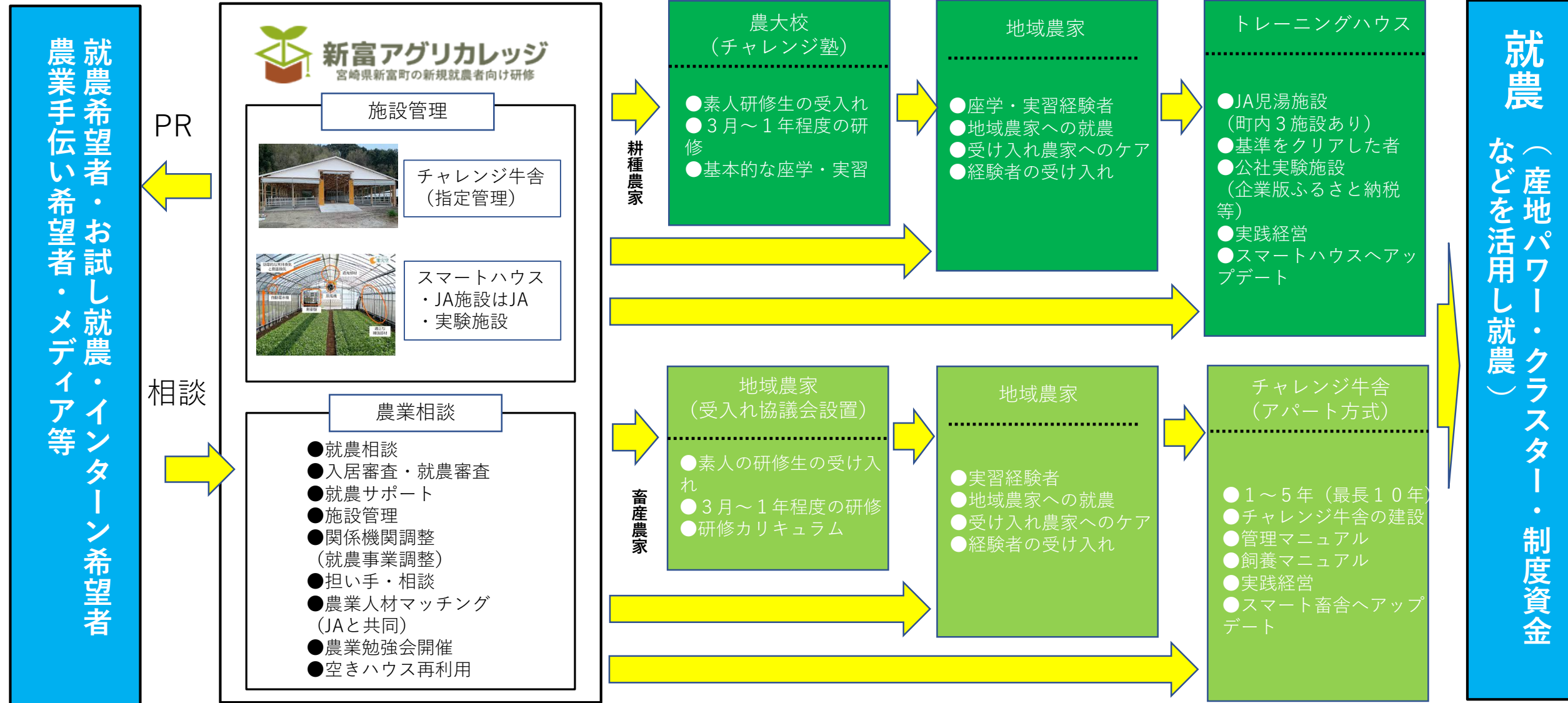
月に1回程度の事業打合せや情報共有の機会を仕組みとして展開することやその都度の3者のゴールの共有などが必要。

初期の具体的な事業内容

目標値：年間5名の就農
 (KPI) 農業マッチング5件
 農業勉強会の開催 (毎月)

新富アグリカレッジによる人の基盤づくり

※畜産施設に関してはJAとの連携確認と資金確保の目途が立ち次第事業化



← 相談 (PR) →

← 耕種農家 → 畜産農家

← 1次 → 2次 → 3次

← 畜産農家 → 地域農家 → チャレンジ牛舎

← 地域農家 → トレーニングハウス → チャレンジ牛舎

← トレーニングハウス → チャレンジ牛舎

← チャレンジ牛舎 → 就農

一気通貫での就農

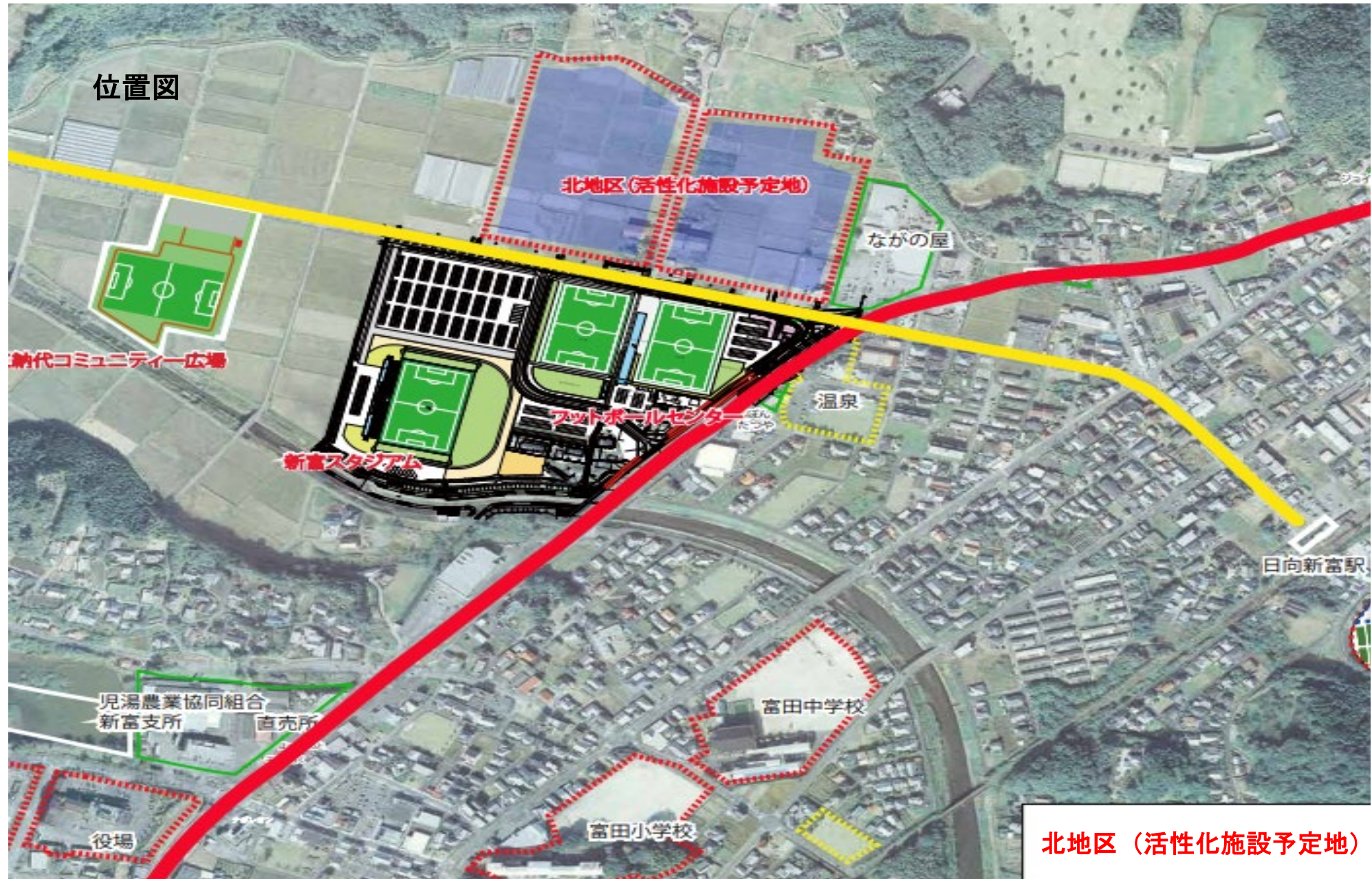
目標値：直売所売上 10 億円
 (KPI) 牛舎利用 3 件
 実験農場の設立

施設管理の流れ



ハード整備以後は、収益性のあるものから事業プランを作成し、株式会社等を設立していく。

新富アグリカレッジによる基盤づくり



北地区 (活性化施設予定地)